

2024年8月4日  
8月第一主日礼拝式／聖餐式



# 「御名を掲げて」

(詩篇148:13)

み名をかかげて あなたをたたえます  
救いのために あなたは来られた  
救いのみちを 与(あた)えに  
天(てん)よりくだり 来られた  
十字架により いのち あがない  
よみがえられた

# 80 ほめたたえよ

ほめたたえよ 新しい歌で  
ほめたたえよ 朝に夕に  
義なる主に向かい 力ある限り  
義なる主に向かい 力ある限り  
ほめたたえよ 新しい歌で  
ほめたたえよ 朝に夕に

新聖歌438番 「 悩む世人(よびと)のために 」

- 1 悩む世人(よびと)のために 咲きいでし花あり  
その香(か) 今や世界の すみずみにおよべり  
\* 香り妙(たえ)なる シャロンの野花(のばな)よ  
来たり ひらけや この心の中に
- 2 花はまずガリラヤの 海辺(うみべ)に咲きいでて  
囚人(めしうど)を解きはなち 病めるをば癒(いや)しぬ  
(\*くりかえし)
- 3 心なき国人(くにびと)に 踏まれ散(ち)らされしが  
その根より萌(も)え出でて 今や世界に満(み)つ  
(\*くりかえし)

アーメン

## 使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。  
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。  
われは聖霊を信ず。  
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、  
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、  
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌233番 「驚くばかりの」

- 1 おどろくばかりの 恵みなりき  
この身の汚(けが)れを 知れるわれに
- 2 恵みはわが身の 恐れを消し  
任(まか)する心を 起こさせたり
- 3 危険(きけん)をも わなをも 避(さ)け得(え)たるは  
恵みのみわざと 言(ゆ)うほかなし
- 4 御国(みくに)に着く朝 いよいよ高く  
恵みの御神(みかみ)を たたえまつらん

アーメン

新聖歌11番 「ほめたたえよ 造り主を」

- 1 ほめたたえよ 造り主を 聖きみまえに ひれ伏し  
ささげまつれ 身をも魂(たま)をも  
たぐいなき 御名をあがめて
- 2 くすしきかな 神の力 荒ぶる波を 静めて  
あやうきより み民をまもり  
この世の悩みに 勝たしむ
- 3 恵みの神 栄えの主を もろ声あげて たたえよ  
強き手もて 導きたもう  
主にのみ みさかえ 尽きざれ

アーメン

# 主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらのにちようの糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌60番 「天地(あめつち)こぞりて」

あめつち こぞりて

かしこみたたえよ

みめぐみ あふるる

父 御子(みこ) 御霊(みたま)を

アーメン